

子どもの頃のにぎわい
楽しさを取り戻したい

和田 浩志

奥州棚倉商店 会長

昭和52年（1977）、棚倉町生まれ。
創業98年、和田時計店の専務取締役。仕事の関係で、大阪、東京で生活、
2011年11月に帰郷し、家業を継ぐ。地元若手商店主らとともに、「たなぐlove」を結成。
2018年7月、インターネット通販サイト「奥州棚倉商店」立ち上げ。

「福島が大変なことになっている！」このニュースは、震災当時暮らしていた
東京で知りました。両親との電話で、原発事故、地元や家業の状況を聞き、
家業を継ぐことを決心。その年の11月、妻と子どもを連れて故郷に戻ると
棚倉の町はすっかり活気を失っていました。なんとか子どもの頃に見たにぎわい、
楽しさを取り戻したいと、2018年7月、同じ志を持つ若手商店主らと、
共同店舗としてインターネット通販サイト「奥州棚倉商店」を立ち上げました。
私が実家に帰ると決めたとき、知人たちは、「放射能ヤバいんじゃないの？」
と心配しました。私自身は、原発事故の影響についてある程度理解していたので、
不安はなかったのですが、「原発事故・放射能」などのフレーズが、
福島のイメージになってしまっていると感じました。
それは現在も続いていると思います。

私の長男は震災の1ヵ月前に生まれ、今は新型コロナウイルス感染拡大の
真っ只中にいます。子どもたちには、この体験を前向きにとらえ、
新しいことにチャレンジする力に変えてほしい。

特に震災と原発事故を経験した福島は、子どもたちが挑戦しやすい環境であって
ほしいし、私たち大人も子どもたちをサポートしていきたいですね。



「奥州棚倉商店」では会津木綿の腕時計ベルトなど、
異業種のメンバーが共同で開発した商品も登場